

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	糸嶺 一郎
通学キャンパス			
論文題目	新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに及ぼす影響		
審査結果(枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の概要。</p> <p>本研究は新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに与える影響を明らかにすることを目的とし、ベースライン時に1082名、7か月後の追跡調査で975名の新人看護師を対象に質問紙調査をおこなった縦断研究である。</p> <p>主たる結果としては、バーンアウトの影響要因として社会人基礎力が最も強く影響しており、社会人基礎力を向上させることで看護基礎教育の段階から社会人基礎力を育成することが、修飾語のバーンアウトを抑制できる可能性があることが明らかとなった。</p> <p>研究方法、倫理的配慮などについては適切に行われていた。</p> <p>大学教育で社会人基礎力を育成することの重要性はこれまでも文部科学省などが強調されるところであるが、その関係性を実証したという点で本研究の価値がある。また、本研究結果は看護基礎教育と継続教育の連携の必要性及びそれぞれが果たす責任を明確にするものであり、看護師育成の観点で意義は大きい。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>2回の審査会および1回のメール会議を行い、2回の修正論文の提出を求めた。</p> <p>第一回目の審査会は、平成28年11月21日に実施された。研究枠組みの妥当性とオリジナリティがあることは認めたが、論文の論理一貫性を保つための論文構成、統計的手法でいくつかの問題点を認めたため、修正論文の提出を求めた。</p> <p>第二回の審査会は、平成28年12月27日に実施された。論文の訂正は真摯に取り組み、ほぼ適切に修正されているものの、目的の明確化、総合考察の充実、バーンアウト尺度の解釈について意見があり、それらの修正を求めた。</p> <p>修正論文が1月7日に提出され、適切に修正されていることを3人の審査委員で確認し、合格と判断した。</p> <p>3. 口頭試問の結果を簡単に記載する。</p> <p>社会人基礎力、学士力、バーンアウトの考え方、看護師基礎教育と継続教育などについて尋ねたが、適切な回答があった。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が糸嶺一郎氏に博士(看護学)を授与するにふさわしいと判断した。</p>			
論文審査担当者	主査	荒木田 美香子	
	副査	岡崎 美智子	
	副査	小野寺 敦志	